

令和4年2月17日

各 位

四国紙パルプ研究協議会
(公社)愛媛県紙パルプ工業会

四国紙パルプ研究協議会
「令和3年度第2回講演会」開催のご案内

令和3年度第2回講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響により県外往来が難しい状況下であり、現地会場を予定しておりました高知県立紙産業技術センターから愛媛県紙パルプ工業会館に変更し、ハイブリッド形式(対面+オンライン)にて、開催いたします。

関係各位には、開催に向けてどうかご理解とご協力をいただき、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

開催日時 令和4年3月10日(木) 13時30分～16時20分

開催場所 ①(公社)愛媛県紙パルプ工業会 2階 大会議室
②オンライン(Zoom ウェビナー)

参加費 無料(申込必要)

申込方法 下記申込書を、ファクス又はe-mailにて、お送りください。

※ オンライン参加ご希望の方には、会期が近づきましたら、ご登録いただいたメールアドレス宛に、Zoom ウェビナー情報を Email にてご案内させていただきます。

<参加申込書>

事業所名		部署・役職	
所在地			
TEL 番号		FAX 番号	
No.	氏 名	参加場所	登録メールアドレス
1		①会場 ②オンライン	
2		①会場 ②オンライン	
3		①会場 ②オンライン	
4		①会場 ②オンライン	
5		①会場 ②オンライン	

[参加申込先・お問い合わせ先]

四国紙パルプ研究協議会事務局
〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町 4084-1
(公社)愛媛県紙パルプ工業会内
TEL 0896-58-2055
FAX 0896-58-6240
E-mail info@e-kami.or.jp

令和4年3月7日(月)までにご回答をお願いいたします。

四国紙パルプ研究協議会
「令和3年度第2回講演会」講演発表プログラム

開催日程 2022年3月10日(木)
開催時間 13時30分～16時20分
主催 四国紙パルプ研究協議会
共催 高知県立紙産業技術センター

【 演 題 要 旨 】

講演1「柑橘由来セルロースナノファイバーMaCSIE[®]の開発」 13:40～14:25(45)

愛媛製紙株式会社 技術部技術課 主任 岡本 一茂 氏

愛媛県では柑橘の生産が盛んであるが、一方で柑橘果皮が年間5000t以上廃棄されている(H26年愛媛県産技研調べ)。この柑橘果皮を有効利用して高付加価値な製品にすることを目的としてH30年度より「戦略的基盤技術高度化支援事業」に採択され、「柑橘由来セルロースナノファイバーの革新的製造プロセス及び用途開発」のテーマで愛媛県等と共同で研究開発を行った。柑橘CNF MaCSIEは搾汁残渣である柑橘果皮を機械的処理で解繊しており、①高粘度・チクソトロピー性、②無添加・無変性の天然素材、③柑橘由来成分の含有、といった特徴を有している。本講演では昨年4月から高機能ペーストとして販売開始した柑橘セルロースナノファイバー「MaCSIE[®]」について紹介する。

(休憩 10 分間)

講演2「CNFに関する最近の動向と「四国CNFプラットフォーム」の取組み」

四国CNFプラットフォーム事務局

14:35～15:20(45)

(一財)四国産業・技術振興センター 高機能素材産業支援PJリーダー 鈴木 昭男 氏

セルロースナノファイバー(CNF)は、社会的課題のカーボンニュートラルに貢献するとともに、工業製品の材料にいろいろな機能性を付加することが期待されている素材である。

現状では、まだ比較的高価格なので利用先が限定されているものの、近年の製造技術の工夫や、利活用技術の取組み、工夫により、多様な製品に使われはじめており、本格的な社会実装に向け、さまざまな芽が出始めている。

本講演では、CNFの現状を概観するとともに、ベースとなる紙産業が集積した四国地域で、いかにCNFを活用した製品化事例を増やし、社会に役立てるかに取り組む「四国CNFプラットフォーム」の取組みについて紹介する。

(休憩 10 分間)

講演3「金融資本市場からみたSDGs：脱炭素と生物多様性」 15:30～16:15(45)

(株)四国銀行 地域振興部 調査役 佐久間 雄一郎 氏

米バイデン政権の誕生、パリ協定復帰により、気候変動問題は、環境・社会だけでなく、経済も含めた世界の持続可能性についての問題としての位置づけを取り戻した。

金融機関は、自社の営業活動に由来する環境負荷こそ必ずしも大きくないものの、投融資先を通じての間接的な影響度の把握、問題に対する行動が、開示基準の適用(日本ではコーポレートガバナンス・コード)等という経路を通じ、一定の強制力を伴う形で求められようとしている。

金融資本市場からみたSDGs、中でも事業活動へのインパクトの大きい脱炭素と、さらには、今年、大きな進展が予想される生物多様性について紹介する。